

2007-07-04 02:42:38 **new**

## アンチキャンサージャパン、 分子イメージング研究のため彩都に研究施設を開設



米AntiCancer社が2006年11月に設置した日本法人であるアンチキャンサージャパン（大阪府茨木市、八木滋雄社長）は07年7月3日、大阪府の彩都バイオインキュベータにMolecular Imaging Labを開設した。

AntiCancer社は、ヒトがんモデルマウス「MetaMouse」や、抗がん剤感受性試験「HDRA」などの製品を持つ企業。診断に用いる「HDRA」（[関連記事1](#)）とホモシステイン測定キットはみらかホールディングスを通じて国内でも販売中だ。同社のがんモデルマウスは、抗がん剤を探索・研究している多くの製薬企業が利用している。また、同社が1999年に提起したリサーチツール特許訴訟（[関連記事2](#)、結果的にはAntiCancer社が敗訴）は、リサーチツール特許問題を世に知らしめるきっかけとなった。

アンチキャンサージャパンは、Molecular Imaging Labにおいて、蛍光たんぱく質を使った実験動物の生体内イメージングや、がん転移モデルマウス・血管新生モデルマウスを用いた抗がん剤評価の受託研究、がんのイメージング技術の研究開発、遺伝子組み換えマウスの研究・開発を計画している。レベルP2の遺伝子組み換え実験が可能な実験室には、INDEC Biosystems社の小動物イメージング装置「Fluor Vivo」、オリンパスの小動物用生体観察顕微鏡「OV100」などを設置済みだ。

現在、アンチキャンサージャパンが新しく販売を計画しているのは緑色蛍光たんぱく質（GFP）ヌードマウスで、日本SLC（静岡県浜松市、高木博義社長）が8月にも販売を開始する予定だ。GFPヌードマウスに、赤色蛍光たんぱく質（RFP）導入がん細胞を移植すると、がん細胞の体内での動きが色の違いで分かる。日本SLCは、GFPヌードマウスを製薬企業を中心に販売していきたい考えだ。（増田智子）

Copyright(c) Nikkei Business Publications, Inc. All Rights Reserved

日経バイオテク(2007年7月4日)(Website)